

平成28年度 実施事業の概要

施設名： 国立妙高青少年自然の家
教育事業名： 統合型長期移動チャレンジキャンプ MYOKO チャレンジ2016 ～自分の足で歩く100 kmトレイルへの挑戦～
期間： 7月9日(土)～7月10日(日) (1泊2日)事前キャンプ 7月30日(土)8月11日(土)(12泊13日)本キャンプ
対象及び参加人数： 小学校5年生～中学校2年生 18人
目的： 社会を生き抜く力の育成 (具体的なねらい 自立・協働・感謝) 自立： 自ら考え、的確に判断し、仲間と助け合いながら諦めずにやり抜く力を育む。 感謝： 野外での不自由な体験を通して、「あたりまえの生活」や家族、そして、ともに活動する仲間、自然への感謝の心を育む。 協働： 仲間との関わりの中で、自らの役割を考えて果たし、互いに尊重し合いながら、支え合う態度を育む。 また、ナショナルセンターとして本事業で以下の2点について普及していく。 ○子供たちの変容等を調査し、その効果について普及していく。 ○野外活動におけるユニバーサルデザインを意識したプログラム開発をする。
事業概要： 本事業は、子供たちの「社会を生き抜く力」を育成するために実施した12泊13日の長期キャンプである。またこのキャンプは、一般募集の子供たちと、いじめ・不登校など様々な課題を抱える子供たちが一緒に参加し、お互いに高め合いながら活動する統合型のキャンプでもある。活動場所は、信越トレイル(全長約80km)と、妙高戸隠連山国立公園の一部である野尻湖・笹ヶ峰・火打山・妙高山である。大自然の困難な状況の中で、テント泊をしながら生活し、様々な活動を仲間と協力しながら乗り越えていくことで社会を生き抜く力の育成をする。
成果 ①リーダーシップの5つの力が伸びた ②社会的スキルを獲得することができた ③一人一人の成長につながるポイント 事前キャンプと事後キャンプで参加者の保護者との面談を実施した。その結果、キャンプに参加した子供たちの理解をスタッフで共有することができ、キャンプでの個々の成長を保護者に伝え、その後の良好な親子関係につなげることができた。
課題： 課題① プログラムのねらい、参加者への支援について、スタッフ間での共通理解が難しい。 →プログラムデザインの見直し 課題② 社会を生き抜く力「自立」「協働」「感謝」を検証できていない。 →プログラムのねらいに合った尺度の選定 課題③ 登山の安全管理についてのスタッフの知識や技術が不十分。 →スタッフ研修の充実